

地域コミュニティの変質の理由

総合技術政策研究センター 建設経済研究室

主任研究官 門間 俊幸 研究官 大橋 幸子



(キーワード) 地域コミュニティ、実態調査、統計データ

注目される地域コミュニティ

都市部における住民の頻繁な入れ替わりによる地域への愛着・帰属意識の低下や、地方部における地域コミュニティの担い手の減少などの理由により、わが国の地域コミュニティは失われつつあると言われている。しかしながら、持続的な国土形成のためには地域コミュニティの再生が必要である。2008年7月に閣議決定された国土形成計画では、人口減少等を前提として各種の課題に答えていく必要があるとした上で、自治会など地縁型のコミュニティの再生等の取り組みを進めるべきと述べられている。また、2008年5月に出された定住自立圏構想や、2007年11月に出された（2008年12月改定）地方再生戦略などの各種計画・構想においても、地域コミュニティの重要性に言及している。

一体、近年の地域コミュニティに何が起こったのであろうか？再生すべきとうたわれる地域コミュニティは、なぜ失われてしまったのであろうか？これらの現象を解明すべく、過去30年にわたる地域コミュニティの変質の実態について、調査・分析を行っている。

統計データよりも地域の声を尊重

地域コミュニティの特性をうかがい知ることのできる統計データは数多くある。人口、高齢化率といった代表的なものから、公民館数、NPO法人数などが考えられる。しかしながら、これらの統計データを用いて、アンケートとともに統計解析をしたとしても、それは本当に地域コミュニティを表しうると言えるのであろうか。

本研究では、地域コミュニティの変質を解明するために、まず、実際に地域が経験した変化につ

いて注意深く実態調査を行っている。ヒアリング等を中心に、過去30年の歴史を明らかにすべく行ったこの調査では、統計データでは分かりにくい住民の意識の変化や生活様式の変化に関連する地域コミュニティの変質が徐々に浮き上がってきた。

一方で、地域コミュニティの変質の実態を把握しつつ、それを表しうる統計データの検討も行っている。検討に際しては、変質を表す特徴が、先行して出現するか、遅延して出現するか、地域性があるか等を吟味し、実態と相反する統計データがあった場合には実態を優先としている。

研究は、地域コミュニティを「若者の居住と雇用」「地域医療」「高齢者とモビリティ」「地域防災」の4つの側面から分析している。

最終的には、これらの実態調査と統計データの双方から、地域コミュニティの変質の実態と理由を明らかにし、地域コミュニティの再生に資することがこの研究の目的である。

今後の研究

本研究は、2008年度中に最終成果を取りまとめる予定である。成果は随時論文等で発表し、HPに掲載を予定している。
(<http://www.nilim.go.jp/lab/pcg/>)

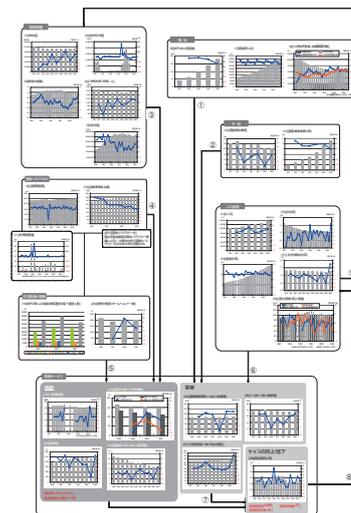


図-1 分析の一例